

## 平成 27 年度 第 3 回南城市地域交通会議 議事要旨

日時：平成 27 年 12 月 24 日(木) 15:00～17:00

場所：南城市役所 2F 玉城農村改善センター ホール

< 出席者 >

団体名等	氏名	備考
南城市	座波 一	会長
琉球大学工学部環境建設工学科	神谷 大介	副会長
沖縄総合事務局 運輸部 企画室	山口 泰史	代理
沖縄総合事務局 運輸部 陸上交通課	古堅 宗安	
沖縄県企画部交通政策課	阿波根 庸夫	代理
沖縄県南部土木事務所	和宇慶 務	
一般社団法人 沖縄県バス協会	慶田 佳春	
一般社団法人 沖縄県ハイヤー・タクシー協会	津波古 修	
私鉄沖縄県労働組合連合会	喜屋武 悟	
沖縄バス株式会社	名嘉山 敬雄	代理
東陽バス株式会社	普久原 朝啓	
南城市民生委員児童委員連絡協議会	大城 宏光	
南城市区長会	渡慶次 昇	
南城市商工会	津波古 孝弥	

< 議 事 要 旨 >

1.10 月～11 月の運行状況、利用状況の報告について

発言者	発言
山口委員代理	向陽高校の生徒がデマンドバスを登校時に利用する時間帯というのは、学校に着く時間か、それとも家を出発する時間か。
事務局	8 時便であれば、8 時台に家を出たという扱いになる。
山口委員代理	向陽高校は 0 校時を実施しているか。
事務局	7:30 から授業を開始している。
神谷副委員長	資料②の図 4 で平均乗車人員が整理しているが、車両の小型化検討の参考とするため、次回からでよいので最大乗車人数も記載して欲しい。

2.南城市生活交通確保維持改善計画(案)について

発言者	発言
慶田委員	計画案の目的は「おでかけなんじい」の財源を確保するためのものか。また、バス路線の再編は視野に入れているのか。
事務局	国の補助金確保は目的の一つではあるが、数値目標を明確にし、運行状況をチェックすることも目的としている。 当面は、現行のバス路線を補完することを目的に計画を策定しているが、平成 30 年代前半の南部東道路供用、公共駐車場整備等を見据え、平成 28 年度以降再編に向けた考え方を整理する予定である。
座波会長	将来的にバス路線も再編していくという理解でよいか。
事務局	南部東道路の供用により、人、車の流れが大きく変わることから、そのための準備を進めたい。
古堅委員	年間 3,000 万円の財政負担が生じていることを考えると、2.5 人/便は少なすぎるのではないか。
事務局	南城市の地形、迂回が必要な道路ネットワークを考えると、多くの方を乗せて効率的に運行するのが難しい状況になっている。今後はコンパクトな車両の導入による効率化も考える必要がある。
古堅委員	減便、運行取り止めの基準は、次回の第 4 回会議で決定し、市民に周知していくということによいか。
事務局	そのように考えている。

発言者	発言
山口委員代理	運行予定便数の 20%という国の補助金の足切りラインがある。減便、運行取り止めは、国の補助金の足切りラインとあわせて検討するのか。
事務局	現在は、運行効率の面から検討している。国の足切りラインの考慮については、今後検討していきたい。
山口委員代理	計画策定について補足すると、本来は、地域公共交通網形成計画を策定し、財源確保のために生活交通確保維持改善計画を策定するという流れになる。また、南部東道路供用等に伴う再編は、再編実施計画を策定し、その枠組で再編事業を進めるという仕組みとなっている。
神谷副会長	パブリックコメントの資料をもっと簡略化し、利用者の意見を聞くことは出来ないか。減便についても利用者とコミュニケーションをとりながら、検討を進めた方がよい。自治会へのヒアリングなど説明のプロセスを入れながら、進めた方がよい。
事務局	減便については利用者に意見をうかがうようにする。利用者座談会に参加した方から意見をうかがう方法も考えたい。
神谷副会長	回数券の 20 回は個人的に多いと思う。5,000 円は負担が大きいと感じる。
山口委員代理	利用客が購入しやすいのは 2,000 円～3,000 円ぐらいではないか。観光客向けに 1 日周遊券もあるとよい。
事務局	OKICA 導入前の路線バスの回数券は 50 枚綴りであり、その半分以下なので、多くはないと考えているが、利用者に意向をきいて再検討する。観光客の周遊券については次年度の課題として考えている。
古堅委員	減便、取り止めの基準は市民にわかりやすい方がよい。1 台あたり何名という表現にできないか。
神谷副会長	1 台あたりの表現がわかりやすいと思う。
事務局	1 台当たりの表現に見直す。
渡慶次委員	減便等により、経費はだいぶ変わるのか。
事務局	色々なケースがあるが、減便で 1 ヶ月 30 万円程度、休日運行取り止めで 100 万円単位の効果がある。(第 2 回会議資料参照)
慶田委員	路線バスの学生向けの回数券は 25%割引であったが、向陽高校の生徒でも割引率は一般の回数券利用者と同じ 17%なのか。学生は 25%割引にしてはどうか。

発言者	発言
事務局	<p>県外の事例では、市外に出ると追加料金をとるところもあるが、一律の 300 円の料金設定にしており、割引の上乗せは考えていない。回数券は運転手による販売を考えているが、金額の端数も含めて複雑にしたくない。</p>
慶田委員	<p>乗務員の販売は、負担軽減も考慮して、極力控えた方がよい。学校に販売を委託するという方法もある。</p>
古堅委員	<p>利用促進の観点から、糸満市の空港までの直行バス「いとちゃんバス」との連携は考えられないか。</p>
事務局	<p>バス事業者等と意見交換を行いながら、検討を進めていきたい。</p>
山口委員代理	<p>中学生などに交通授業を行い、市内のバスの運行状況や、「おでかけなんじい」の運行経費等を説明し、生徒から意見を吸い上げてみてはどうか。</p>
事務局	<p>今年度は準備が間に合わないが、向陽高校の校長先生が、南城市の各中学校をまわり「おでかけなんじい」で登下校出来ることを PR していただいている。</p>
座波委員長	<p>南城市内にはまだまだデマンドバスの需要があり、真の需要を掘り起こすのがデマンドバスの役目だと考えている。パブリックコメントの意見を反映して、2月の会議で最終確認をしていただくこととします。</p>